

平成30年度自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

大変よい：A よい：B 普通：C 一部検討を要する：D 改善を要する：E

評価項目	取組状況	評価
教育・保育目標について	<p>建学の精神や教育目標について、園の目指す方向性を職員会議や園内研修の中で全職員に周知したり、具体的な話し合いをしている。</p> <p>教育目標については、全体的な計画や教育課程に位置づけて作成し、年間指導計画等と関連づけを図ってきている。しかし、日常の保育活動で、保育目標について共通理解ができているというところまでは、まだである。</p>	A
指導について	<p>認定こども園教育・保育要領に基づき、指導計画を作成して指導に当たっているが、年間指導計画や月案、週案に、情意面や10の姿を意識した育ちに焦点を当ててきた。子どもの自立性や協調性・社会性を育てていくために、子どもが主体的に遊びを考え、友達との関わりをもつ場の設定をもっと工夫していく必要がある。</p> <p>遊ぶ子どもたちの姿から話し合っていくことや日常的な保育活動でのカリキュラムマネジメントの定着を図っていかなければならない。</p>	B+
教育週数・教育時間について	<p>年度当初の計画に基づいて行われていて、週数と教育時間の確保に努めている。</p>	A+
行事について	<p>行事については、学期ごとや大きな行事の後に反省を行っているが、学年により行事が多くあるので検討を要する。ねらいに合った行事となっているかを更に検討していく必要がある。</p> <p>行事の前に行う集会は準備にとっても時間がかかるが、その分子どもたちが楽しんでくれているのでなかなか外せない。</p>	A
分掌・体制について	<p>職務内容が明確で、協働しながら行うように努めていて、体制としては仕事が一部に偏らないように配慮している。担当者は自分なりに考えて、責任をもって進めていくことがこれからも大事である。</p>	A
運営について	<p>教職員は、全体的立場で協力し園運営に取り組んでいるが、職員が共通理解をしていくための会議や学年等での打ち合わせについては、時間を厳守して時間内に終えることができるように努めていく必要がある。長くなる場合は、文書等で知らせるようにしていく。</p> <p>また、案を提示する場合は事前に案を配布しておいてから話し合うことも必要である。</p>	B
学年・学級経営について	<p>学年・学級目標は、園の教育・保育目標を基に設定し取り組んでいる。特にチーム保育については、よく行われている。</p> <p>実践したことの評価や記録の集積については、記録をファイルして残していく必要がある。</p>	A

評価項目	取組状況	評価
保健・安全指導について	保健・安全については、ヒヤリハットを活用しているが、怪我等の対策を検討する資料として活用できなかった。怪我等の集計だけでもまとめ、打ち合わせ等で話し合うことも考えていきたい。ヒヤリハットの集計をもとに、安全に過ごすための習慣化と態度の育成に努めたい。	A
園内研究・研修について	わくわくタイムを設けて園内研修を行い、子どもたちの育ちの共通理解につながっている。また補助保育教諭も参加しての研修の場を設けることができ、一步前進した。 その話し合いの成果を日常の保育活動で工夫して実践し、子どもたちの変化を記録し、さらに話し合っていくことで研究が深まっていくと考えている。	A
園外研究・研修について	園外の研究・研修会や講演会などに参加して、教育・保育についての学びの深まりを感じている。県主催の講座やキャリアアップ研修等に参加し学ぶ機会が増している。	A
情報について	個人情報については、保護者と連絡を密にして、守秘義務を守り外部に漏れないよう配慮している。	A+
施設・設備について	園舎・園庭の施設・設備について安全点検を行って安全に使用できるように取り組んでいるが、少しずつ園内外の劣化が進行していて、気づかないでいる場合がある。 また、子どもたちが遊ぶ園庭にガラスやコンクリート片等が出てくるので、定期的に点検が必要である。 教材等の整理・保管については、今年は整理したり処分したりして、使いやすいよう整えてきている。	B
学校間交流・連携について	学校間の交流・連携は継続して行われてきているが、毎年決まった内容で行われている。小学校との連携と接続のあり方を今後とも考えていく必要があるが、双方でなかなか時間がとれず難しい現状でもある。	B
家庭・地域社会との連携について	園からの便りや担任と保護者との情報交換は密に行われていることや他専門機関との連携を図っていることはこれからも進めていきたい。中央通商店街への訪問等は、とても喜ばれている。 子どもの遊びの中から成長の記録を活かし、発信していく方法について保育者間で話し合っていく必要がある。 また、保護者から育児に関する「子育て相談」の希望者がいないのが気になるが、夏の個人面談には協力してくれているので、面談の中に、保護者の相談したい内容を取り入れ、子育て相談の機能をもたせたものになるよう検討していきたい。	B+